

主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	当第2四半期 売上高(実績) (億円)	対前年同期 増減率	2020年度 売上高(実績) (億円)	2021年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
オプジーボ点滴静注	561	14.3%	988	1,100	11.3%
フォシーガ錠	156	49.3%	224	350	56.6%
グラクティブ錠	127	△1.7%	255	245	△3.9%
オレンシア皮下注	112	3.3%	219	225	2.7%
パーサビブ静注透析用	45	15.6%	81	80	△0.6%
カイトロリス点滴静注用	42	18.6%	71	75	5.3%
ペレキシブル錠	29	497.2%	21	50	142.6%
オノアクト点滴静注用	23	8.8%	47	40	△14.1%
オパルモン錠	24	△16.8%	55	40	△26.7%
リバスタッチパッチ	16	△61.7%	66	30	△54.6%
ピラフトピカブセル	14	301.0%	11	30	180.6%
メクトピ錠	11	234.9%	10	25	150.9%
オノンカブセル	18	49.6%	29	25	△14.2%
オンジェンティス錠	9	1,477.7%	3	25	631.1%
当期新発売品	5	—	—	25	—

選択的SGLT2阻害剤「フォシーガ[®]錠」、新たな効能・効果の承認取得

2021年8月に、選択的SGLT2阻害剤「フォシーガ[®]錠」は、新たな効能・効果として「慢性腎臓病」の承認を取得しました。慢性腎臓病（CKD）は、腎機能の低下を伴う重篤な進行性の疾患で、多くの場合、心疾患や脳卒中の発症リスクの増加と関連しており、日本では約1,300万人が罹患していると推定されています。「フォシーガ[®]錠」は日本で初めてCKDの治療薬として承認された薬剤であり、今回の承認取得により、日本の多くの慢性腎臓病患者さんにとって大きな希望となるものと期待されます。

「オプジーボ[®]点滴静注」、新たな効能・効果の承認を取得

2021年5月～9月に、抗PD-1抗体「オプジーボ[®]点滴静注」について日本、韓国、台湾で以下の4つの承認を取得しました。

効能・効果	承認取得国
悪性胸膜中皮腫の一次治療 (抗CTLA-4抗体「ヤーボイ [®] 点滴静注液」との併用)	日本・韓国・台湾
胃がん、胃食道接合部がんおよび食道腺がんの一次治療	韓国・台湾
キナーゼ阻害剤「カボメティクス [®] 錠」との併用での腎細胞がんの一次治療	日本
小児のホジキンリンパ腫	日本

引き続き、本剤の適応がん腫の拡大を目指し開発を進め、未だ治療手段がなくて困っているがん患者さんにご使用いただけるように取り組んで参ります。

BRAF阻害剤「ビラフトビ[®]カプセル」、韓国で新たな効能・効果の承認取得

2021年8月、韓国においてBRAF阻害剤「ビラフトビ[®]カプセル」と抗ヒトEGFRモノクローナル抗体であるセツキシマブとの併用療法が、「治療歴を有するBRAF^{V600E}変異を有する成人の進行・再発の結腸・直腸癌」に対する新たな効能・効果の承認を取得しました。韓国では、年間約28,600人が新たに結腸・直腸がんと診断され、年間約9,700人の死亡が報告されており、BRAF^{V600E}遺伝子変異陽性は、結腸・直腸がん患者の4.7%に認められ、BRAF^{V600E}遺伝子変異のない場合に比べ予後が不良です。韓国ではBRAF^{V600E}遺伝子変異陽性の結腸・直腸がんに対する効能・効果で承認された薬剤はなく、新たな治療法が必要とされています。今回の承認により、ビラフトビがアンメットニーズを満たす新たな治療選択肢になるものと期待されます。